

2日 水曜

ホセア

2:1 言え。あなたがたの兄弟には、「わたしの民」と。あなたがたの姉妹には、「あわれまれる者」と。

2:2 「問いただせ。あなたがたの母を問いただせ。彼女はわたしの妻ではなく、わたしは彼女の夫ではないから。その顔から淫行を、その乳房の間から姦淫を取り除け。

2:3 そうでなければ、わたしは彼女の衣をはぎ取って裸にし、生まれた日のようにして彼女をさらし、荒野のようにし、砂漠の地のようにして、渇きで彼女を死なせる。

2:4 彼女の子らを、わたしはあわれまない。彼らは姦淫の子らだから。

2:5 彼らの母は姦淫を行い、彼らをはらんで恥をさらした。彼女は言ったものだ。『私の愛人たちの後について行こう。彼らはパンと水、羊毛と麻、油と飲み物をくれる』と。

2:6 それゆえ、わたしは茨で彼女の道に垣根を巡らし、彼女が通い路を見つけないように石垣を積む。

2:7 彼女は愛人たちの後を追っても、追いつけない。彼らを捜し求めても、見つけれない。彼女は言う。『私は初めの夫のところに戻ろう。あのころは今よりも幸せだったから』と。

2:8 しかし彼女は知らない。このわたしが、穀物と新しいぶどう酒と油を彼女に与えたのを。わたしが銀と金を多く与えると、彼らはそれをバアルに造り上げたのだ。

2:9 それゆえ、わたしはその時になれば、わたしの穀物を取り返す。その時期になれば、わたしの新しいぶどう酒を。また、彼女の裸をおおっているわたしの羊毛と麻をはぎ取る。



2:10 今、わたしは彼女の恥を、愛人たちの目の前で暴く。彼女をわたしの手から救い出せる者はいない。

2:11 わたしは彼女のすべての喜びを、祭り、新月祭、安息日、すべての例祭を終わらせる。

2:12 『これは、愛人たちが払ってくれた私への報酬』と彼女が言った、あのぶどうの木といちじくの木を荒れすたらせる。わたしはこれを林に変えて、野の獣が貪り食うようにする。

2:13 彼女がバアルの神々に仕えた日々のゆえに、わたしは彼女を罰する。彼女はバアルの神々に香をたき、耳輪や飾りを付けて愛人たちの後について行き、このわたしを忘れた。——【主】のことば。

夫である自分のもとから離れて、恋人たちのところへ行ってしまった妻に対して、ホセアはやりきれない悲しみと嘆きの中にいたことでしょう。それは子どもたちにとっても悲しみと恥であったに違いありません。

そしてそれはまさに神のもとから離れて、バアルなどの偶像に走った、イスラエルの民と同じだということです。さらにそれは神意外のものを神の代わり慕い求める者の姿です。神様を愛し従うことを忘れて、別のものを神の代わりに求めていたとしても、そのための費用やエネルギー主からのものです。「酒と油とを与えた者、また、バアルのために使った銀と金を多く与えた者が、わたしであるのを、彼女は知らなかった。」ということになっているのです。

妻に裏切られた夫の報復がここに書かれていますが、神様も同じようにしてもおかしくないのだとうことが分ります。しかしこの後には、神様の驚くべき赦しが預言されます。

自分自身、神様を裏切ったことがあるなら、そ

れを早いうちに悔い改めて、方向転換しましょう。神様の愛は大きいことを心にとめて、その愛に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

